

1. 開催日時 平成 28 年 5 月 29 日 15 時 00 分～16 時 55 分
2. 開催場所 名古屋国際会議場 2 号館 234 会議室（愛知県名古屋市熱田区熱田西 1 番 1 号）
3. 有効出席数 正会員総数 1,764 名中 965 名（内 当日出席者 154 名、議長委任者 749 名、書面表決者 62 名）
4. 審議事項、議事の経過の概要及び議決の結果

<議長の選出>

定刻、当法人定款の規定により、疋田事務局長が議長の選出について出席者に諮った結果、総会に出席した正会員の中から林加代子さんが議長に推薦され選出された。議長は総会の開会を宣言、事務局より正会員総数、有効出席数、書面表決結果の報告を行い、議長は本総会が適法に成立する旨を宣した。続けて、議事録署名人の選出について出席者に諮った結果、柴田朋浩さん、徳山可之さんが選出された。また、本日出席の理事・監事の紹介があり、議案の審議に入った。

<第 1 号議案> 平成 27 年度事業報告並びに決算及び監査報告について

(1) 議案説明

総会議事資料に基づき、飯島理事より事業報告の説明が、野口理事より決算の説明があった。また、池田監事・平山監事より、「監査の結果、法令及び定款に違反する重大な事実はなく、財産及び収支の状況はいずれも適正妥当であった」との監査報告があった。

(2) 審議結果

質疑応答の後、参加者の挙手により、賛成多数にて承認された。

<第 2 号議案> 平成 28 年度事業計画並びに予算について

(1) 議案説明

総会議事資料に基づき、平井理事より事業計画の説明が、酒井理事より予算についての説明があった。

(2) 審議結果

質疑応答の後、参加者の挙手により、賛成多数にて承認された。

<第 3 号議案> 平成 28 年度役員の選任について

(1) 議案説明

総会議事資料に基づき、明石理事より、平成 28 年度の理事として荒金雅子、加藤貴美子、酒井麻里、椿恵子（通称：疋田恵子）、鳥羽秀人、野口和裕、平井雅以上 7 名の再任と井上基之、亀井直人、中西百合、中野功以上 4 名の新任が提案された。あわせて、監事に池田隆年の再任、長橋良智の新任が提案された。

(2) 審議結果

質疑応答の後、参加者の挙手により、賛成多数にて承認された。

<第 4 号議案> 定款第 16 条の変更について

(1) 議案説明

総会議事資料に基づき、疋田理事より、監事の再任の上限を累計 3 期とすることを目的とした定款第 16 条の変更に関する議案の説明がなされた。

(2) 審議結果

質疑応答の後、議長より挙手による意思表示を求めたところ、当日出席者の挙手による賛成が 135 名、反対が 0 名、棄権 2 名であり、議長委任（749 名）と書面表決（賛成 60、反対 2 名、棄権 0 名）を加えた結果、賛成が 944 名、反対が 2 名、棄権が 2 名となり、出席者の 4 分の 3 以上の多数にて承認された。

以上をもって本日の議事は終了し、議長は 16 時 55 分閉会を宣した。

2016年5月29日

住所 東京都渋谷区千駄ヶ谷3丁目12番8号
名称 特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

以上、本会議の議事及び結果が正確であることを証するため、議事録を作成し、議長及び議事録署名人はこれに署名捺印する。

2016年5月29日

議 長 林 加代子

議事録署名人 柴田 朋浩

議事録署名人 徳山 可之

総会議事資料誤植訂正表

| 誤 | | 正 | |
|------------------------|------------|------------------------|------------|
| P11 支援助言事業費 決算内訳 教育F室 | | P11 支援助言事業費 決算内訳 教育F室 | |
| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
| 事務消耗品 | 10,430 | 会場使用料 | 10,430 |
| 交通宿泊費 | 1,905 | 事務消耗品 | 1,905 |
| 謝礼等 | 155,240 | 交通宿泊費 | 155,240 |
| P11 交流・親睦事業費 決算内訳 GFPC | | P11 交流・親睦事業費 決算内訳 GFPC | |
| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
| 謝礼等 | 700 | 交通宿泊費 | 700 |
| 印刷費 | 50,000 | 謝礼 | 50,000 |
| P23 寄付金収入 個人寄付金 | | P23 寄付金収入 個人寄付金 | |
| 予算内訳 | 金額 | 予算内訳 | 金額 |
| 北海道 | 10,000 | 事務局 | 10,000 |
| P23 収入の部 | | P23 収入の部 | |
| 収入合計 | 金額 | 収入合計 | 金額 |
| 事務局 | 16,200,000 | 事務局 | 16,210,000 |

<第1号議案> 平成27年度事業報告並びに決算及び監査報告について

議長より、挙手による質問を受け付けたところ、以下の通り質疑応答があった。

質問) 事業報告書内では助成金は「40万円弱」とあるが、収支報告書では308,132円とあり、どちらが正しいのか。

回答) 収支報告書が正しい。理由は資料作成時期のズレによるものである。

質問) 収支報告書の交流親睦事業について、関西だけ事務消耗品が多い理由を知りたい。

回答) 参加者に配るパンフレット、バインダーの単価が高かった。募集定員で発注したため多かった(補足資料62に同記載あり)。

<第2号議案> 平成28年度事業計画並びに予算について

議長より、挙手による質問を受け付けたところ、以下の通り質疑応答があった。

質問) 非会員の参加料を徴収する場合、公共施設が使えなくなるなどの問題について、議論はあったのか。

質問) 議論はしていない。会場によっても異なるのではないかと考えている。また、地域によって事情は異なるのではないかと。参加料を徴収してもよい民間の会場を借りられるように予算設定にするなど、各拠点で検討してほしい。なお、各開催で受け入れない・受け入れる・数回のみ受け入れる、などの調整も可能である。

意見) それに見合った収入は得られず、支出のみが増えることになる。

質問) これまでのような調査研究事業と交流親睦事業の差がなくなるのではないかと。

回答) 目的が異なるので、明確に違いがあると考えている。定例会は調査研究事業であり、学びの場・研究の場が深まるために対象を開くことが、非会員参加の目的である。

質問) 定例会の非会員からの参加料収入は支部に還元されるのか。

回答) 還元という考え方はない。総会で承認された計画・予算に基づいての執行となる。予算を超える支出が見込まれる場合、事業予備費からの流用となるため、理事会に諮る必要がある。

質問) 若者世代にフォーカスをあてるとあるが、これからの構想を聞きたい。

回答) まだ、具体的な計画はない。沖縄サロンの実例として、広島に出かけて行った実績はある。これからはやりたいという提案があれば、予算を重点的に付けるなどの対応をしたい、と考えている。

質問) ファシリテーションサポートプログラムについて伺う。コーディネーターに対する謝礼はあるのか。ない場合は考えてはどうか。

回答) コーディネーション業務については1案件あたり5,000円を予算化している。労働対価ではないも

のである。ファシリテーションで世の中の役に立ちたいという人でやりたい。交通費等の活動費としてこの額に決めた。会計上は謝金としている。

質問) 28年度予算：交流親睦事業収入が27年度の実績と比べ多いのではないか。その根拠を知りたい。

回答) 昨年度までの支部イベントは、会場費相当をFAJが負担とし、赤字でやってきた。今年度は方針を変更し、プラスマイナスゼロとなるよう各拠点に依頼した結果である。

質問) お試し参加は残るのか。非会員参加可能となると、会員が辞めるのではないかと推測するが、そのことは検討したのか。

回答) 残らない方針である。(会員減少ではなく全体収入見込みの) 検討を行った。定例会参加の非会員率は13.9%、東北スクエアの非会員参加率23.5%でシミュレーションした結果、今年度の収入はそれほど減らないのではないかとみている。しかしどうなるかわからないので、一緒に考えていきたい。相談窓口を設置する予定である。

質問) 調査研究事業で出た収入分を交流親睦事業で使えるか。

回答) 使えない。計画予算ベースである。あくまでもFAJ全体で予算を考える。収入がなかったとしても(交流親睦事業として) やる必要がある事業は全体の収支を判断して、総会で決めるものである。

質問) 非会員を認めるという言い方であったが、調査研究事業のために、非会員の参加を認めることではないか。

回答) 定例会に非会員が参加できるということが、大きな変更点。その理由は、非会員が参加することで調査研究が深まると考えるからである。交流親睦としてではない。

質問) 定例会に非会員が参加できるということを、明記しておいた方がいいのではないか。

回答) 明記した。規程を改定した。

意見) 調査研究事業がよくなるために、というのは賛同するが、東京支部が非会員を入れないと決めたら、「ファシリテーション入門『たんぽぽワークショップ』」など非会員の多く参加する定例会などは困ることが出てくる。

質問) 各支部で予算を決めた時点では、非会員収入の話はなく、1割減で作成した。会場費が増えると思われ、それをいちいち理事会にはかるのは、運営がやりにくくなる。支部に裁量を任せた方がいいのではないか。

回答) 意見として承りたい。理解いただきたいのは、これから新しいことを始めていこうとし、トライアルを行っていること。8月からの運営までに議論をしながら一緒に作っていきたい。

<第3号議案> 平成28年度役員を選任について

議長より、挙手による質問を受け付けたところ、以下の通り質疑応答があった。

意見) 役員候補者推薦に参加できる対象を全ての会員にしてほしい。1次候補者、2次候補者の選出プロセスが見えにくい。例えば、上位10人2次候補者にする、という明確な基準を持つことなどを検討してほしい。

<第4号議案> 定款第16条の変更について

議長より、挙手による質問を受け付けたところ、以下の通り質疑応答があった。

質問) これまでの監事の経験年数もカウントされるか。

回答) 年数に含める。

以上